

百草

No.19

特定非営利活動法人たすけあい大田はせさんず
〒146-0082 東京都大田区池上4-28-3
TEL03-5747-2610 FAX03-5747-2620
e-mail・hasesanz@yg7.so-net.ne.jp
URL・http://www007.upp.so-net.ne.jp/hasesanz/



15年目の新たな旅立ち

特定非営利活動法人たすけあい大田はせさんず
理事長 坂口郁子

たすけあい大田はせさんずは、今年で15周年を迎えることができました。活動のきっかけは、大田区女性セミナー“老いを豊かに”の連続講座に参加したことでした。当時は保健福祉10か年計画が施行されて2年目であり、まだNPO法も介護保険もありませんでした。講座で日本や世界の福祉の現状を学び、結論としてこのまま座して老いを迎えても私たちには豊かな老後が来ないことを知りました。このメンバーが私たちの街で住み続けるために、助け合いの会をつくりましょうと手探りで活動を開始しました。

30人に満たないメンバーがエネルギーに目的に向かって動きました。どれほど多くの方々からご支援をいただいたでしょう。任意団体からNPO法人になり、介護保険の事業者になり、「助けてと言われればまず馳せ参じる」という理念を変えることなく1歩ずつ愚直に続けることができました。この間、なんと多くの方たちとのふれ合い、別れ、出会いがあったことか。たくさんの仲間と尊敬する先達に深く感謝いたします。地域の人たちのニーズに耳を傾けながらみんなで走り回っているうちに、必然的に同じ志の仲間が集まりました。大田NPO活動団体交流会、公益財団法人さわやか福祉財団、NPO法人市民福祉団体全国協議会などの活動や研修に参加し、介護保険法の見直しを政府に提言するまでになりました。また、他の業種なみの給料が支払われ働き手の参加できるしくみをつくるように、さらなる運動を展開しています。

たすけあい活動に、退職したシニアの特に男性の応募者が増えています。移送活動、庭木の手入れや本棚の整理など単に男手としてでなく、その知識と経験を生かした活動に、利用者も生き生きとされています。午前中はゴルフ、午後は利用者宅の草むしり、来週は旅行なので活動は休みですなど、第二の人生の充実ぶりがうかがえます。また、認知症の90代の方のお散歩、話し相手などは女性の得意分野で、ご家族が「貴女がいるときだけ母は笑うんです」と。これがインフォーマルサービスの醍醐味です。

小惑星探査機「はやぶさ」が7年の歳月を経て地球に帰ってくる。小惑星「イトカワ」の砂をお土産にして。この閉塞感に満ちた星「地球」に何か新しい宇宙への手がかりを得られたら……。 「はやぶさ」を成功させた人たちのチームワークにならって、新しい可能性に向けて助け合いのネットワークをひろげる核の1つになりたいと思います。人って、すばらしい。

第12回通常総会開催

議案のすべてを承認

第12回通常総会が5月30日(日)10時より、はせさんず事務所1階にて開催されました。

社員総数27名のうち出席14名、委任状提出13名によって総会は成立し、下記の5議案が異議なく承認されました。

- 第1号議案 2009年度事業報告
- 第2号議案 2009年度決算報告
- 第3号議案 2010年度事業計画(案)
- 第4号議案 2010年度予算(案)
- 第5号議案 役員補充



参加し、他団体との連携や情報交換を行います。世田谷区委託の認定調査を月10件程度実施します。

●2010(平成22)年度事業計画

【会員制活動事業】

地域との交流や他団体との連携活動を通じて、たすけあい活動を継続していきます。15周年記念の行事を開催し、会員交流会と併せ、活動の意義を深める催しとする予定です。介護予防「元気かい」は今年度から英語サークルを増やし、活動をひろげます。

【介護保険訪問介護事業】

介護保険サービスと保険適用外サービスを併せて提供するなど利用者への対応をさらに工夫する、スタッフ研修を行いサービス提供責任者の質の一層の向上に努めるなど、良質なサービス提供を続ける予定です。訪問介護事業者連絡会で事業者間のネットワークづくりにも参加します。

【介護保険居宅介護支援事業】

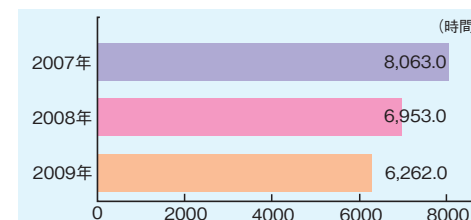
利用者に最適な介護プラン提供をめざすとともに、大田区介護支援事業者連絡会に

2010(平成22)年度月別活動予定

- 4月 『はせさんずニュース』No.50発行
- 5月 第12回通常総会
- 6月 新入職員防災避難訓練
- 7月 『百日草』No.19発行、移送活動者安全研修会、ヘルパー研修会(救急救命)、会員交流会
- 8月 『はせさんずニュース』No.51発行
- 9月 健康検診(検便)、ヘルパー研修会
- 10月 『はせさんずニュース』No.52発行、防災避難訓練、さわやか福祉財団フォーラム(9日、大田区民プラザにて)
- 11月 会員制活動者・ヘルパー研修会、フリーマーケット参加
- 12月 年末懇親会
- 1月 『はせさんずニュース』No.53発行、移送活動者情報交換会
- 2月 15周年記念講演会
- 3月 会員制活動者・ヘルパー研修会

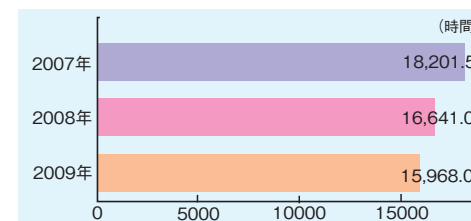
■2009(平成21)年度事業報告資料(3年間の部門別活動状況)

【会員制活動事業】



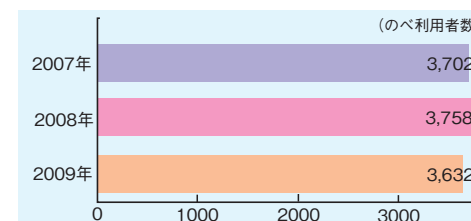
目標の94.9%の実績となった。福祉有償運送の需要もやや少なくなっている。介護保険や民間の保険適用外サービスを受けることで利用者の要望が減少しているか。

【介護保険訪問介護事業】



介護保険制度改定によりヘルパー確保の面がやや改善。サービス実績は前年度比96.0%ではあるが、常勤ヘルパーの採用により年度の終盤から増加している。

【介護保険通所介護事業】



小規模型事業所で可能な人数の利用者を十分受け入れられず、実績が前年を下回った。利用者に対する介護職員や看護師の配置など課題が残った。

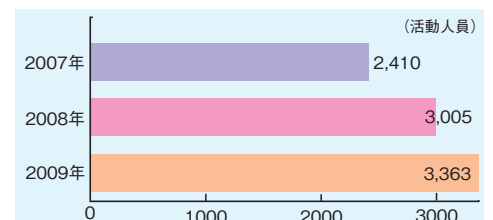
【介護保険通所介護事業】

施設長の交代とともに看護師や介護職員の配置を整備し、小規模型事業所のよさを生かしたサービス提供を心がけます。また、機能訓練に力を入れるとともに、外出以外のアクティビティを開発して内容を充実させます。

【障害福祉サービス事業】

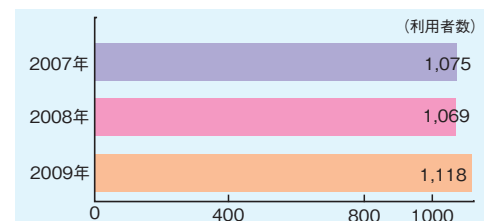
利用者一人ひとりに合わせたサービスを

【元気かい】



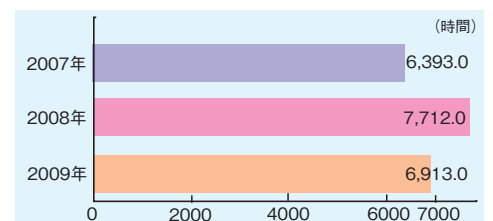
定例食事会、歌の集い、パソコン教室、健康マージャンなど、参加者は前年を上回った。特に健康マージャンの参加が増加している。

【介護保険居宅介護支援事業】



介護保険制度改定に合わせ、ケアマネジャー1人あたりの担当する利用者数をやや増やすなど、ほぼ目標にそった活動となった。

【障害福祉サービス事業】



前年度比89.6%のサービス実績ではあるが、目標の102.9%の実績で安定したサービス提供を行った。

実施するため、研修会開催やマニュアルの整備などを行い、サービス技術をさらに高めるように努めます。引き続き大田区地域自立支援協議会に委員として参加します。

【その他の事業】

大田区こども家庭支援センター委託の育児支援訪問、学校や他団体からの実習生の受け入れや講師派遣などの人材育成にも引き続き努めます。

はせさんず、ご寄付をありがとうございました

2009（平成21）年度寄付者
 岩田頼明 岩柳俊夫 上田隆正 白田豊子 馬道カ子 大澤恵美子 川嶋和子
 小林恵子 小林孝司 佐藤京子 篠原銃一郎 清水はりえ 中牟田幸子 西田 充
 三村 勲 村石美佐子 森 重光 森 保子 柳澤 登 渡邊和弘 匿名1名
 以上21名（敬称略五十音順）。総額47万6,300円でした。皆様からのご芳志は、はせさんず運営費として有効に使わせていただきました。

●決算・予算について

2009（平成21）年度は会員制活動、訪問介護、居宅介護支援、通所介護を合わせた事業総収入額は1億2,423万円（前年比97.1%）。通所介護の実績が伸び悩んだことから決算は前年度実績を下回りましたが、4月の介護保険制度改定で訪問介護および居宅介護支援事業の報酬が改善し、スタッフやヘルパーへの賃金もわずかですがアップしました。当期収支差額は102万円の黒字となりました。

2010（平成22）年度の活動目標は以下のとおり前年度とほぼ同じです。

会員制活動：活動時間6,600時間
 訪問介護：活動時間16,800時間

居宅介護支援：ケアプラン1,200件

通所介護：利用者数3,660人

障害福祉サービス：6,720時間

予算設定も活動目標から前年度なみとしていますが、介護職員処遇改善交付金を見込み、予算額は収支とも前年度より300万円ほど多くなっています。今年は特に15周年記念事業に対し予算を計上しています。

●役員補充について

欠員となっていた理事に、ケアサポート管理者の牧野晴美さん、事務局長の佐藤悟さんが就任しました。また宮邊健正さんが退任しました。

新・任・理・事・よ・り



新任理事 牧野晴美

最初、はせさんずの事務所に週1回のアルバイトとしてかわりをもってから10年。今日では、居宅介護支援業務を主に、介護支援専門員として地域の高齢者とかかわりをもたせていただいております。これからは、理事として、5年後10年後のはせさんずのために、何かできるのか、何をしなければいけないのかをよく考えて、だけど、気負わずにがんばっていききたいと思います。よろしく願いいたします。

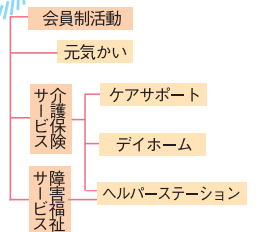
新しい市民社会づくりに奔走しているはせさんずの一員として、利用者、活動者、さらには地域の人たちとの“かかわり”をもっと深めていきたいと思っています。また、“馳せ参ずる”組織環境づくりに貢献できればと心を引き締めています。



新任理事 佐藤悟

mini News

各部門
今年度は
ここが重点！



会員制活動

秩序あり心暖まるお節介！

会員制たすけあい、特に福祉有償運送の活動者が増えており、利用者の要望に対応できる体制が整ってきました。さらに日々の介護予防から家事・生活援助に心暖まるサービス提供ができればと思っています。（佐藤悟）



ヘルパーステーション ハンドブックの改定版を作成

ヘルパーステーション開設時からヘルパーさん一人ひとりに渡しているハンドブック。サービス時の必要事項が書かれていますが、今年は改定版を作成する予定。特に緊急時などヘルパーさんが落ち着いて対応できるように整備していきたい。ヘルパー活動のマニュアルとして、より役立つようなものにしたいと思います。（浅敷洋子）



デイホーム 心が安らぐデイサービスに

デイサービスはご利用者の心が安らぐ場でなければなりません。老若を問わず、安心のなかにいるときこそ、人間は本来の姿を発揮し輝いてくるものです。ご利用者の気持ちが生き生きと輝いてくると、心身の機能も改善されてきます。そういうことで、今年のデイホームは、安らぎをテーマにしたいと思います。（田中正英）



ケアサポート

記録の見直しと充実を図る！

記録の見直し・充実を図ることが重点目標。いくらよいケアでも、はたから見えてすぐわかるものではありません。日頃どのように訪問し、どのようなケアをいかに計画に基づいて行っているかを正確に残し、記録をまた見直すことによって、さらなる気づきや目標を見出し、いこうと思っています。（牧野晴美）



元気かい

さらなる発展を期し専用会場確保を

21年度の参加者3,363人と年々着実に増えています。今年は「楽しい英語サークル」をささやかながら始めました。行政の支援はなく、参加者の会費で今日まで賄い、高齢者を対象にした介護予防には氷山の一角にすぎず、さらなる発展には専用会場の確保が望まれます。今年も会場の確保に努める所存です。（中谷三郎）



■ はせさんず15周年特別企画

学びのネットワークを振り返る

はせさんずは設立時より原則年に1回の講演会を開催しています。市民活動は学びとともにあると考えてきたためです。そのときどきで選んだテーマは私たちの歩み、そして悩みの履歴書のように。15周年にあたり、当時の講師からメッセージを寄せられました。



公益財団法人
さわやか福祉財団理事長
堀田力さん

●1995年2月4日大田区生活センターにて講演
「高齢社会の地域ボランティア——わたしにもできます——」
●2001年12月8日大田区産業プラザPIOにて
ボランティア国際年記念講演
「新しいふれあい社会の創造」

やさしく、つよい百日草

大都会の孤独がいよいよ深まる東京。その中で坂口さんが咲かせた百日草は、隣り合う人々の心に灯をともし、しっかりと根を広げています。介護保険などの事業を展開しながら、ふれあい・助け合いの原点をゆるがず守り、育てている「はせさんず」の方々のやさしさとつよさに、心からのエールを送ります。



NPO法人
サポートハウス
年輪理事長
安岡厚子さん
●1996年7月6日大田区生活センターにて講演
「24時間在宅介護の実際」

15周年おめでとうございます。人間にたとえると「15の春」、高校生になる年ですね。自分の頭で考え、自分の力で歩む頃でしょうか。後5年で成人する大事な入り口に立ったことになります。「たすけあい大田はせさんず」の地域に根ざしたこれまでの活動は、目を見張るものがあります。混沌とする社会の中で、NPOの存在は益々重要になってきます。これからも「大田の星」として輝くこと期待しております。



衆議院議員
石毛鉄子さん
●1996年11月16日大田区生活センターにて講演
「こうありたい公的介護保険」

NPO 活動としての蓄積 15 年、介護保険を包摂して多様に人と人との出会いをつなぐたすけあい、ささえあいの活動で地域づくりを進めてこられた、はせさんずの皆様にごところから敬意を表させていただきます。行政セクター、営利セクターではない、まさに非営利セクターとしての活動をますます社会に根付かせて、さらにつながりのある地域づくりの核となられますことを期待し祈念申し上げます。



(社)長寿社会文化協会理事
田中尚輝さん
●1997年11月22日大田区生活センターにて講演
「高齢社会のボランティア——あなたにも必要になる地域の助け合い——」
●2007年3月10日大田区生活センターにて講演
「高齢期を自立して生きるために——居場所づくりから新しい地域福祉を考える——」

「はせさんず」が15周年を迎えた。市民が参加する福祉団体の先駆けを「はせさんず」は走り続けている。大田区の人々は「はせさんず」が存在するお陰で不幸の数を少なくしている。もしも「はせさんず」がなければ大田区の市民参加による福祉は遅れたものになっただろう。今後の役割は、点から線へと広げてきた福祉の輪を面にするこた。今後も走れ！「はせさんず」。



住民福祉総合研究所所長
木原孝久さん
●1998年11月28日大田区生活センターにて講演
「たすけあいボランティア活動——新しい介護（ホームヘルプ）をめざして——」

「日本の住民力は頼りない」と専門家は言っていましたが、これが間違いであることがはっきりしました。全国の「はせさんず」と同種の活動が十数年記念を迎えています。このあり方が日本の福祉風土の一つになった感があります。「新しい公共」などと言われますが、住民の間からわき起こった「公共」活動はもう定着期に入っているのですね。その先兵として、さらに前進することを期待します。



作家
志茂田景樹さん
●2001年2月3日大田区生活センターにて講演
「人はいかに生き、いかに死ぬか——次世代に伝える心——」

創設 15 周年おめでとうございます。講演ではたしか「いかに死ぬかはいかに生きるかを考えることで答が出る」ということを訴えたように思います。あれから9年経ちましたが、生きることの貴さすばらしさをますます追い求めることが必要な世の中になったような気がします。その意味ではせさんずの活動は多くの方に生きる活力をあたえているように思います。これからの活動にも大いに期待しています。



日本経済新聞
編集委員
浅川澄一さん
●2003年3月8日大田区生活センターにて講演
「日本をかえるNPO、これからの課題——企業・行政そしてあなたとの協働——」

「馳せ参ずる」を想起させる名称は実にいい。思い余って思わず駆け出してきた、というボランティア心そのものだと感じています。活動の歩みも、日本の介護系 NPO 法人のモデルといえるでしょう。01 年 7 月に「有償活動は課税対象か」の取材で事務所を訪ねて以来、「支援費制度スタート」(03 年 5 月)、「制度改定で暗雲」(07 年 9 月)、そしてこの 4 月の「散歩介護に現場が苦悩」などでご登場願って頂きました。いつも快くお話を伺い、なお利用者を紹介していただく。何人もの利用者の言葉から、「はせさんず」への大きな信頼がよく分かります。



弁護士
早川治子さん
●2004年2月14日大田区池上会館にて講演
「高齢者虐待と成年後見法」

「はせさんず」は要介護者自立支援のための活動を15年も続けて来られたこと、着実にその成果をあげるべく大変なご努力をされている様子に深く敬意を覚えます。成年後見制度発足から10年、要介護者は増え続けています。制度運用の実態には多く問題もあり現場はさぞ苦労が多いことでしょう。でも、本当に支援を必要とする人々のために、益々のご尽力、活躍くださいますように。



NPO法人COCO湘南
前理事長
西條節子さん

●2005年2月5日大田区池上会館にて講演
「私の「ふれあい型」グループホーム ― グループリビングCOCO湘南台に暮らして ―」

15周年の歩みをまなびつつ

不毛地帯の状況下の中『いのちを守る』をモットーとされたこの会が開設されて15周年を迎えられ心からお祝いを申し上げます。
また坂口郁子理事長様はじめ活動に参加されているスタッフの皆様「心と汗」のご努力に頭が下がる思いです。地域に暮す一人ひとりの生涯は奥行き深く、はかり知れぬ幅があります。その思いをしっかりと受け止めて汗を流され支えておられる姿・お見事！

特定非営利活動法人たすけあい大田はせさんず様、創設15周年を心からお祝い申し上げます。

「ずっとこの町で暮らし続けたいその願いのために」学びつつ、発信しつつ先駆的に多様な地域・在宅福祉サービス活動を展開し続けてこられました。地域のふれあい、助け合いを基本にした取り組みは住民の皆様の大切なよりどころでもありましょう。今後とも、ますますのご発展と、ご活躍をお祈りしてお祝いの言葉といたします。



「うちの実家」代表
河田圭子さん
●2006年3月18日大田区生活センターにて講演
「支え合いの地域づくりの実践から ― ひとりでもよい介護、ひとりでもよい老後 ―」



内科医師
(医療法人向日葵会、
はせさんず顧問)
鈴木悦朗さん
●2008年2月16日大田区生活センターにて講演
「在宅医療の現状とこれから ― お医者さんと話す会 ―」

この度は、はせさんず創設15周年おめでとうございます。この間、2000年4月に介護保険がスタートし、今まで上から与えられる印象の強かった介護が、保険を通して購入するサービスへとパラダイムシフトが起きました。お上意識の抜けない既得団体や、営利主義に走りすぎる業者の出現の中で、開設当初からいつも利用者の目線で活動してきた、はせさんずが今後とも発展することを願っております。

私が「はせさんず」の坂口さん達と最初にお会いしたのは1994年、『首都圏病院ランキング』トイレでわかる「良い病院」「悪い病院」という面白い本を共著したのがとても懐かしいです。あれから15年余り、はせさんずも立派なNPO法人となりしっかりと場所で大田区の中核を担う介護機関となっています、これからは「はせさんず」さんとは良き医療＝介護連携をし地域医療に貢献したいと思っています。

玉石混淆の介護事業者の中において「はせさんず」さんの発展を応援いたします。



歯科医師
(ハンプー歯科
クリニック、
はせさんず顧問)
竹西理さん
●2008年2月16日大田区生活センターにて講演
「在宅医療の現状とこれから ― お医者さんと話す会 ―」

はせさんず夜明け前。

現在、認知症病棟で治療に当たりながら、高齢者を取り巻く社会の移り変わりを日々感じています。はせさんずとの出会いは「大田区の高齢化社会を考える会」だった頃、1994年に『首都圏病院ランキング』という本と一緒に作ったときでした。トイレから病院を考えるという斬新な企画で、そのときからはせさんずは一点突破全面展開の勢いがありました。これから一緒に熱い活動ができることを期待しています。



精神科医師
(南晴メンタル
クリニック)
山根茂雄さん
●2008年2月16日大田区生活センターにて講演
「在宅医療の現状とこれから ― お医者さんと話す会 ―」



(社)日本フィランソロビー協会
副会長
田中克人さん
●2009年2月21日大田区民プラザにて講演
「どうする、明日からの暮らし ― 日本再生と市民の社会参加 ―」

「たすけあい大田はせさんず」創設15周年おめでとうございます。心よりお祝い申し上げ、坂口郁子理事長様はじめ関係者の方々に心より敬意を表します。
NPOの制度上の問題はありますが、政治と社会の劣化が進み日本社会が崩壊の道を辿っているといわれる今日、国民参加の皆さんの活動こそが日本の将来を救う担い手です。その模範としてのご活躍に期待しております。

家族が崩壊しそうになるとき

「はせさんず」の15年がどれだけの家族と個人へのご支援であったか、私が想像できる範囲を超えています。母と二人暮らしであった私が、母の介護のご支援を頂いたのは平成8年から約7年間でした。母は在宅のままで楽しい時間を過ごしました。そして私は「あなたは仕事をしなさい。お母様のお世話は引き受けますから」と言ってくださった坂口代表(当時)のお言葉に救われました。



理学博士、
(社)産業安全技術協会 参与
松村芳美さん
●2010年2月20日大田区立消費者生活センターにて講演
「マスクから世界を見る ― テロ、作業環境、インフルエンザ、災害から呼吸を護る ―」

志をともにし歩みを支え合った仲間、そして15年間ずっと励ましてくれた「応援団」からのメッセージも紹介しましょう。



NPO法人サポートばんぶきん
理事長
石川みのりさん

私たちが大田区の地域で活動を始めたのが1995年12月、翌年家事援助活動開始にあたってまだ坂口さんの自宅にあった事務所に電話した時、坂口さんが出てこられて「地域と一緒に頑張りましょう」と語った声が蘇ってきます。その時40代だった私も60代に手が届く年代になりました。これからも同じ志の地域の仲間としてよろしくお願いします。

発足15周年おめでとうございます

女性の生き方の学習会から出発し、その学びを活かすべく、地域社会の実践へと飛躍し、はじめは小ながら着実な歩みを続け、今では押しも押されぬ大きな組織に発展し、地域の中で頼り甲斐のある存在として輝きを増し、大きな役割を果たされていることは誠に素晴らしい限りです。発足前の時点から期待をかけ、いささかの協力をしてきた者として心から喜んでます。
それにつけても、見識と包容力に支えられた魅力あふれる坂口理事長の献身的努力と指導力に心から敬服しています。



元国立市教育長
徳永功さん

私たちのあゆみ

2009（平成21）年4月～2010（平成22）年3月

21. 4. 1 (水) 『はせさんずニュース』No.46発行 以後8.31No.47、11.11No.48、1.8No.49発行
 2 (木) 「1000万人の輪」運営委員会 以後全7回 坂口
 7 (火) さわやか福祉財団研修受け入れ 以後全2回・全8名
 17 (金) 市民福祉団体全国協議会理事会 以後全7回（総会含む）坂口
 18 (土)・19 (日) 福祉有償運送認定講習 以後全4回 参加者8名
 20 (月) 対大田区社会福祉協議会活動者募集活動 以後全7回 根本
 21 (火) 定例理事会 以後全8回開催
 大田区民共同推進会議 以後全2回 矢嶋
 22 (水) 宮古中学生見学受け入れ 5名
 東京都社会福祉協議会委員会 以後全3回 矢嶋
 25 (土) 大田区NPO活動団体交流会 以後全12回 矢嶋
 5. 19 (火) さわやか福祉財団ブロック会議 以後全7回 坂口
 24 (日) 第11回通常総会 はせさんず事務所にて 出席者27名
 26 (火) 元気かい一日研修会（羽田空港見学）参加者30名
 6. 2 (火) 大田区助成金審査ほか 以後全3回 矢嶋
 11 (木) 安全運転管理者講習 大澤
 14 (日) わいわいEXPO エセなおた・キッズな大森にて
- 子育てで家族応援のイベントに参加。はせさんずは、移動支援サービスの子どもたちが描いた絵をパネル展示。
7. 7 (火) 『百日草』No.18発行
 8 (水) ヘルパー研修会「リスクマネジメント」池上会館にて 参加者23名
 9 (木) 大田区福祉有償運送運営協議会 坂口・吉田・佐藤
 21 (火) 都立美原高校ボランティア体験受け入れ 以後全2回・全21名
 26 (日) 会員交流会 はせさんず事務所にて 参加者16名
 30 (木) 東京都認知症対策推進会議 以後全3回 坂口
 8. 10 (月) さわやか福祉財団インストラクター会議 以後全7回 坂口
 30 (日) 第7回池上祭に参加 佐藤
- 池上祭実行委員会（池上地区まちおこしの会）主催の池上祭に実行委員として参画。
9. 1 (火) 大田区社会福祉協議会2級ヘルパー同行訪問実習受け入れ
 ～8 (火) 全11名
 10 (木) 移送活動者安全運転研修会・懇親会 はせさんず事務所にて
 参加者22名（講師：池上警察署2名）
 11 (金) ヘルパー研修会「緊急対応！」ふれあい蓮沼にて 参加者21名



「百日草」発送作業



わいわいEXPO



都立美原高校ボランティア



池上祭



移送活動者安全運転研修会

■ご冥福をお祈り申し上げます

2009（平成21）年

2010（平成22）年

4月7日	谷口美恵子さん	67歳	8月12日	岡田きよみさん	91歳	1月7日	柳澤 登さん	78歳
5月11日	長谷川貴子さん	66歳	9月13日	関 サダさん	90歳	1月26日	鈴木清之助さん	103歳
5月22日	佐藤 ソデさん	90歳	9月18日	尾崎 清子さん	98歳	2月1日	植田 敦子さん	81歳
5月28日	原口 勇さん	84歳	10月3日	岩柳 俊男さん	72歳	3月3日	鈴木 ミツさん	79歳
6月6日	金井 輝光さん	79歳	12月4日	渋谷 まささん	95歳	3月12日	先崎 好男さん	75歳
6月12日	羽島 敬子さん	60歳	12月19日	石川 寛さん	78歳	3月22日	二宮 文雄さん	86歳
6月23日	篠原 キワさん	98歳	12月19日	砂塚与四郎さん	90歳			
7月12日	高堂 博さん	85歳						

9. 19 (土) デイホーム敬老祝いの会

～23 (水)

民謡、お琴、かたりべ、エレクトーン、マジックなどで、笑顔・笑顔の一週間！



デイホーム敬老祝いの会

10. 5 (月) 定期健康診断

～15 (木)

11. 7 (土) 「OTAフェスタ」フリーマーケットに出店 平和島にて 参加者のべ48名

・8 (日)

2日間にわたり、OTA（おおた）ふれあいフェスタ、フリーマーケットに出品。毎年、はせさんずのコーナーは人気です。慈悲のお宝で48万3,050円！



フリーマーケット

11 (水) 元気かいピアノコンサート 大田区民プラザにて 参加者67名

11 (水) 大田区職員研修受け入れ 2日間・全3名

19 (木) ヘルパー研修会「感染症対策」ふれあい蓮沼にて 参加者20名

25 (水)・27 (金) 東邦大学医学部学生研修受け入れ 2日間・全3名

12. 19 (土) 臨時理事会 以後全3回

21 (月) さわやか福祉財団評議会 以後全2回 坂口

22. 1. 15 (月) ヘルパー研修会「記録の書き方」池上会館にて 参加者28名

28 (金) 大田区地域自立支援協議会専門部会 以後全3回 榎敷

2. 8 (月) 火災避難訓練 参加者21名

12 (金) 大田区通所介護事業者連絡会 宮邊

18 (木) 大田区訪問介護事業者連絡会 以後全2回 榎敷

19 (金) 市民福祉団体全国協議会研修会 坂口

20 (土) 第15回講演会「マスクから世界を見る」大田区立消費者生活センターにて 参加者35名

3. 12 (金) 全国社会福祉協議会生活支援サービス推進研修会 佐藤

～14 (日)

19 (金) ヘルパー研修会「認知症の方への対応」池上会館にて 参加者28名

ヘルパー活動の現場で遭遇するケースでグループディスカッションをして認知症対応のポイントを学びました。



火災避難訓練

公益財団法人さわやか福祉財団 2010年4月1日誕生

さわやか福祉財団は、2010（平成22）年4月1日より公益財団法人となりました。新しいふれあい社会の創造の理念のもと、高齢者の「尊厳の確立」と「生きがい」のある暮らしを持てる社会の実現のために、みんなでさらなる活動を推進していこうとしています。

財団では、名刺両面大作戦を実践しています。企業人に社会貢献の情報が届くように、名刺の裏面に参加している活動の名称を書き込むというものです。名刺の表は社会が与えてくれた自分の役割、裏面は自分が選び取った自分ならではの役割。ぜひ、あなたも始めてみませんか。坂口は、この4月から財団の理事になりました。（坂口郁子）



NPO活動団体交流会 互いの活動促進、政策提言、職員研修にと活躍中

大田区NPO活動団体交流会は現在、区内の全NPO180団体のうち25団体が加盟しています。大田区のよりよい福祉や社会教育、環境などさまざまな分野でそれぞれの理念に即して活動するとともに、NPOとして区へ提言をしたり、お互いに情報交換や行事参加などで交流したりしていくことを目的としています。

昨年の活動を紹介すると、夏には区議会議員との歓談会、12月には介護保険と障害者自立支援の内部学習会、3月には議員向けの同学習会を実施しました。社会福祉協議会主催の介護者育成講座、2級ヘルパー養成講座の講師派遣も引き受けました。また大田区の入職7年目の職員を対象とした「協働のまちづくり研修」が初めてNPOの現場研修として実現し、10団体が引き受けました。1月には区民活動フォーラムで各NPOをパネルで紹介し、活動をPRしました。今年10月には区の2年目職員の研修があります。NPOの現場をとくとも見てもらいたいと意気込んでいます。（矢嶋早苗）



会員交流会の案内

第13回会員交流会のお知らせです。利用会員、活動会員、賛助会員と、すべての会員が集まり交流を図る場です。ぜひ、ご参加ください。

●日時：2010年7月25日(日) 13:30～15:00

●場所：はせさんず事務所1階

編集後記

夏の土曜日でした。4月に生まれた次女を抱いて汗だくになりながら、保育園児の長女の手を引き仕事場へ急いだのはFAXを送るため。「会の名前を決めるから出席できなくても案を出してね」と、朝電話をもらっていました。送信した案は「たすけっこ」「助っ人ず」、そして「はせさんず（馳せ参じるの複数形）」。暑い仕事場でむずかっていた次女、今年はせさんずと同じ15歳です。（小林恵子）